

スポーツ文化の風を発信する

NITTAIDAI

ニッタイダイ 2004年 秋



CONTENTS

特集1 ■アテネ2004 — 1

オリンピック出場選手インタビュー

特集2 ■パラリンピック — 9

コーチとして出場した卒業生インタビュー

Active People ●社会の第一線で活躍するOB・OG — 11

大学院の紹介 ●3学系の最新ニュース&レポート — 13

NEWS ●04上半期ニュース — 15

クラブ情報 ●04年度上半期クラブの主な大会成績 — 17

INFORMATION ●dot.NITTAIDAI — 18

INFORMATION

dot.NITTAIDAI

■学年暦 (平成16<2004>年度下半期)

月	日(曜日)	行事
10	4(月)	後学期授業開始 ホームルーム期間(成績ガイダンス含む) 日体フェスティバル準備日
	4(月)~15(金) 29(金)	
11	10/30(土)~1(月)	日体フェスティバル 休業日 (10/31の振替)
	2(火)	
12	23(木)~27(月)	大学 スキー理論・実習(社会体育学科2年) (ニセコ) 大学 スキー指導実習(体育・健康・武道学科2年) 第1回(ニセコ) 短大 スキー実習(1年) 12月授業終了 冬季休業 [1/6(木)まで]
	27(月)~31(金)	
	22(水) 24(金)~	
1 平成17年(2005)	7(金)	1月授業開始 後学期定期試験期間 短大教育実習1(保育科1年) [2/4(金)まで] 後学期授業終了(試験を含む) 入学試験準備 (関係者以外学内立入禁止)
	18(火)~21(金)	
	17(月)~ 21(金)	
	31(月)	
2	1(火)~5(土)	平成17年度入学試験 大学 スキー指導実習(体育・健康・武道学科2年) 第2・3回(志賀) 短大 スキー実習(1年) 大学 スケート指導実習(体育・健康・武道学科3年) 短大 スケート実習(2年) 大学 スケート理論・実習(社会体育学科3年) 短大 スポーツ現場実習(体育科生涯スポーツコース1年) 介護等体験事前指導講習会 (体育・武道学科2年 健康・社会体育学科1年)
	10(木)~19(土)	
	11(金)~22(火)	
	23(水)~27(日)	
	14(月)~27(日) 24(木)~26(土)	
3	2/28(月)~4(金)	ホームルーム期間(成績ガイダンス含む)(全学年) 在学生履修申告手続き期間 (大学1~3年・短大1年) 卒業式 (東京・世田谷キャンパス) 春季休業 短大 国際交流実習 (体育科生涯スポーツコース1年) 伝統文化交流実習、外国語実践実習(武道学科3年)
	10(木)	
	11(金)~ 中旬	
	11(金)~20(日)	

■平成17年度入試日程 お問い合わせ先/入試広報室 TEL03-5706-0910

	募集区分	願書受付	試験日	合格(合格)発表
大学	推薦入試 I 期	11/1~11/8	11/28	12/2
	推薦入試 II 期	12/2~12/4	12/12	12/14
	一般入試	12/20~1/13	2/2・3 2/4・5	2/11
	帰国子女特別選抜	11/1~11/8	11/28	12/2
	研究生・科目等履修生・聴講生	3/8・11	3/16	3/18
	編入学	12/20~1/11	2/1	2/11
大学院	博士前期課程 II 期	2/8~2/12	2/26・27	2/28
	博士後期課程	1/11~1/17	2/17	2/18
	研究生・科目等履修生	3/4~3/8	3/16	3/17
専攻科		3/2~3/8	3/16	3/18
短大	推薦入試	11/1~11/8	11/28	12/2
	一般入試	12/20~1/13	2/1	2/11
	帰国子女特別選抜	11/1~11/8	11/28	12/2
	科目等履修生・聴講生	3/8・11	3/16	3/18

※博士前期課程 I 期は日程終了

■日本体育大学女子短期大学部 体育科の定員増決定

文部科学省に申請をしていた、体育科定員増申請(100名→120名)が認可されました。(平成16年9月30日付)
定員増の20名分は、平成17年度入試においては、一般入試の定員とします。したがって、一般入試の募集人員は35名(20名増)となります。(青字部分が変更点)

現行(旧)	平成17年度入試募集人員		推薦入試 一般入試	
	体育科	100名	85名	15名
内訳	保育科	50名	40名	10名
	合計	150名	125名	25名
↓ 認可されました(平成16年9月30日付)				
定員増認可した 募集人員(新)	平成17年度入試募集人員		推薦入試 一般入試	
	体育科	120名	85名	35名
内訳	保育科	50名	40名	10名
	合計	170名	125名	45名

注:一般入試の各々の募集人員は、推薦入試及び帰国子女特別選抜の受入状況により変動することがあります。なお、推薦入試二次選考会発表日以降、推薦入試及び帰国子女特別選抜の受け入れ状況並びに一般入試の募集人員について、ホームページ等にて公表します。

注:日本体育大学女子短期大学部は、平成17年4月から「日本体育大学女子短期大学部」に名称が変わります。

【編集後記】広報誌「NITTAIDAI」の発行目的として、「学生及び教職員相互のコミュニケーションの活性化を図るとともに、スポーツ文化の発信を通して社会に対しても積極的にコミュニケーション活動を行う」ことが創刊号に記載されています。その創刊号は2000年秋号として発行され、特集は「シドニーオリンピック」でした。そして4年が経過。09・2004秋号の特集は「アテネ」に決定し、日体大だけでなく日本中に喜びと感動を与えてくれた「オリンピック」と「パラリンピック」に出場した本学学生・卒業生の選手・コーチの方々に貴重なお話を伺いました。突然の取材依頼から、ご多忙な時間を調整していただいた取材、原稿の確認と、これらの都合に合わせた記事の制作ご協力に謝辞申し上げます。心から感謝申し上げます。
シドニーから今回のアテネへと特集の内容からはひとつの節目を迎えた感がありますが、今後とも発行目的を念頭に「スポーツ文化の風を発信する」ため、情報収集のアンテナを張り巡らせ多くの方たちのお話を伺い、いつも身近な「NITTAIDAI」であるよう編集努力してまいります。

Swimming race



写真提供:共同通信社

北島 康介

きたじま・こうすけ ●体育学科4年生。水泳部・東京SC所属。1982年東京都生まれ。本郷高校出身。高3の日本選手権で100m平泳ぎ優勝(日本新)、シドニー五輪は4位。03年バルセロナ世界選手権では100m(59秒78)・200m(2分9秒42)の平泳ぎをいずれも世界新で制覇。今回は200m平泳ぎで五輪新(2分9秒44)。

個人2冠、日本競泳史上初の金字塔。

小さい頃から五輪に憧れていた北島選手は、目標を4年後のアテネにおいて目大に入学してきた。1年の時から世界の頂点を狙うべく、毎年高い目標を設定し、1年毎に進化し続けるその姿を私たちの前に示してきた。そして「金メダルが目標」と公言した今回のアテネでも、見事に100m・200m平泳ぎで2冠を達成してみせた。

最初の100m。前半は北島選手の世界記録を更新した「最強の敵」ケンセン選手(米国)がトップ。北島選手は0秒04差のみで、それを追いついた。



3番手で折り返し、ターン後のひたかきで頭一つ抜け出した。「ターンして浮き上がった時、自分がちょっと前に出ているかな」と思いました。でも、無心になって泳ぎました。後半の強さでは定評のある北島選手は、0秒17差で逃げ切り、ゴールした。戦前は体調面が不安視されていたが、本番、世界一といわれる技術と超人的な集中力で、それをね返した。

続く、200mでは、スタートで頭一つ前へ出ると、大きく伸びる泳ぎで終始リードを保ち、2位以下に体一の差をつけてゴール。五輪新記録で、世界最強の実力を証明してみせた。個人2冠は日本競泳史上初の快挙である。

(10月4日横浜港健体センターにて)

Swimming race



写真提供:共同通信社

中村 礼子

なかむら・れいこ ●体育学科4年生。水泳部・ヨコハマSC所属。1983年神奈川県生まれ。湘南工科大学附属高校出身。01年福岡、03年バルセロナと、世界選手権に2大会連続出場。02年釜山アジア大会、03年ユニバーシアードでいずれも200m背泳ぎ金メダル。今年の日本選手権で初の五輪切符を獲得。

弱さ克服して念願のメダルを獲得。

中村選手は、早くから天才イマーとしてその素質が期待されていた。だが、200mで世界ランク1位の記録を持って出場した01年の福岡世界選手権は、予選落ち。100mで出場した03年世界選手権も9位で決勝進出を逃した。

「私の課題は精神面」と、大舞台で結果を出せない精神面の弱さを本人も認めていた。そのため、精神面の強化を目標に、同じ水泳部の北島選手を指導する平井コーチの下に通い、今まではほとんどやらなかったウエイトトレーニングにも取り組み始めた。そうした努力を積み重ねて臨んだアテネ五輪。成果は表れた。

世界の大会で初めて決勝に進むことができた最初の100mは、右手の甲に「余裕」と書いて臨んだ。積極的なレースで上位に加わり、50mの折り返しは2位。が、後半伸びず、わずか0秒17のタッチの差でメダルを逃した。「時間が経てはたほど、悔しさがこみあげてきますよね」と語ってくれたが、この悔しさを、勝負の執着が次の結果につなげていく。



次の200mでは「大きく」と書いて臨んだ。中村選手は150mのターンからスタートをかけた。ゴール前でさらに加速するが、最後は2〜4位が横一線の大接戦。タッチした瞬間、何位なのか、まったく分かりませんでした。3位同着、2分9秒88の日本新で念願のメダルを獲得した。勝利の執念が大舞台での弱さを克服し、見事、今季世界ランク1位の實力を発揮した。

(10月、白根浜臨海プールにて)



特集1

21世紀最初のオリンピック

Athens 2004

アテネに吹いた NITTAIDAI 旋風

～喜びと感動をありがとう! 22名のアスリートたち～

21世紀最初のオリンピックとして、近代五輪発祥の地で108年ぶりに開催された第28回オリンピック競技会アテネ大会は、8月13日から29日まで開催された。史上最多の202カ国・地域から約1万6千人の選手・役員が参加し、17日間にわたってこれもまた最多となる28競技301種目で熱戦を繰り広げた。

日本が獲得したメダル数は、84年ロサンゼルス大会の32個を上回る37個と史上最多だった。金メダルは前回は11個も上回り、64年の東京大会に並ぶ最多の16個だった。

日体大の学生・卒業生は、選手・コーチなど41名が参加。日本の獲得したメダル数の3割に迫るメダルを獲得し、NITTAIDAI旋風を巻き起こした。

本号ではアテネ大会に出場した選手22名(現役学生3名、教員1名、卒業生18名)のうち11名に取材を試み、アテネ大会での戦いの様子やオリンピックで得たもの、今後の抱負などを語ってもらった。アスリートたちのアテネの夏に触れてほしい。



今回のアテネ五輪では、参加選手の内、女性の割合が史上最多の44%に達したように女性の進出が著しいが、従来男性の領域と思われてきたサッカーやバスケの審判にも女性が進出している。今回、日本からもサッカーとバスケの審判に女性が選ばれたが、サッカー女子の副審としてアテネのピッチに立ったのが鮎貝さんである。予選リーグのギリシャ-オーストラリア戦と準準決勝のドイツ-ナイジェリア戦の2試合の副審を務めた。

初めての五輪のピッチで普段通りにできたのだろうか？「正直、最初のギリシャ-オーストラリア戦は、ずっと緊張の連続でした。特に、地元ギリシャということもあって、独特な雰囲気でした。さすがに2試合目は緊張がとれ、平常心でできたという。日本には国際審判が主審3人、副審3人の6人おり、鮎貝さんはその副審の一人である。国際審判の資格を得るには、国内で女子トップになり、財団法人 日本サッカー協会の推薦で海外研修を受ければ取得できる。後は、海外で試合経験を重ねることだ。鮎貝さんは海外の五輪予選などで実績を積んできた。

鮎貝さんが審判の世界に足を踏み入れたのは、日体大に入学してから。サッカー部の監督から「初心者には講習会を受けてルールを学べ。審判のトップを目指すつもりで頑張れ」と言われたことから、だ。とはいえ、サッカー選手を夢見て入部した以上、選手へのこだわりもある。だから、4年で2級審判の資格試験を受けた時はうまくいかなかったらしい。「中途半端で、気持ちが入っていませんでした」。でも、その不合格で、「逆に気持ちが審判に切り替わりました」。大学院に進学後2級資格を取得する。

現在は、故郷の宮城に戻り、公立中学の教諭として、夢だったサッカー部の顧問をしながら、審判として国内で年間60~70試合(主審7割、副審3割)を務めている。大変な労力だが、審判としての面白さはどのようなところにあるのだろうか？

「フィールドの中でゲームに関われるのは、当然ですが選手と審判だけですね。やっている最中は、正直、楽しいと思ったことはほとんどないですが、試合が終了後、一緒にゲームをつかった責任感と充実感が大きいですね。試合に対する思いは、むしろ選手時代より強くなりました」。

将来の夢はと聞くと、「サッカー部の生徒たちと中学の全国優勝を目指すこと。そして、今回五輪に出ることができたので、さらに審判技術を磨いて、女子W杯とJリーグのピッチで笛を吹くことです」と語ってくれた。サッカーと審判への限らない思いが伝わってくる。(10月13日、仙台市立西多賀中学校にて取材)

PROFILE ●あゆかいしほ●

1972年宮城県生まれ。高校まではバレー部だったが、91年4月体育学科に入学し、女子サッカー部に入部。日体大時代、審判資格4級(1年)・3級(3年)・2級(大学院)を取得。95年3月同学科卒業、同年4月同大学大学院博士前期課程入学。97年同課程修了。修士論文は「女子スポーツ選手の栄養摂取の問題」。99年女子1級取得。02年国際審判資格取得。04年アテネ大会で女子サッカー副審としてピッチに立つ。現在、仙台市立西多賀中学校教諭。FIFA国際女子副審。

五輪に出られたので、次は女子W杯とJリーグのピッチを目指して、審判技術を磨きたいです。



鮎貝 志保さん

仙台市立西多賀中学校教諭 / FIFA国際女子副審

[1997年3月大学院博士前期課程修了]



写真提供 / 鮎貝さんご本人より



田辺 勉さん

板橋区立赤塚第二中学校教諭

[1986年3月社会体育学科卒業]



写真提供 / 田辺さんご本人より

シッティングバレーボールは、皆で一緒にできるスポーツです。

今回のアテネ・パラリンピックは、12日間にわたって19競技で熱戦を繰り広げたが、シッティングバレーボールもその競技種目の一つで、日本から代表12名が出場した。日本は敗者復活戦で米国に負け、7・8位決定戦に廻り、7位の成績に終わった。

まだまだ世界の壁は高いが、初参加の98年世界選手権11位 / シドニー大会9位 / 02年世界選手権8位。そして今回7位と、回を重ねるごとに成績を上げてきている。田辺さんは、競技歴5年ながら、シドニー大会に引き続き、2大会連続で代表に選ばれた。シッティングバレーボールは、1チーム6人で競う、25点制、5セットマッチの競技。床に臀部の一部を常に着けたまま行うバレーボール、といった方が分かりやすいだろう。

田辺さんがこのシッティングバレーボールを初めて経験したのは、治療入院中のことだった。バレー経験のあることから、理学療法士が勧めてくれたのである。「あまりやる気はなかったです。立ってやるバレーを経験してきた者には座ったまま動くことのイメージがすぐには分らなかったからです」。ところが、国内大会で全日本のプレイを見たとき。「あっ、こうして動くんだ。スパイクもすごい。座ってやっても、立ってやるバレーと同じバレーの醍醐味を味わえるじゃないか」。改めて真剣に練習するようになったのは、ケガが治った99年の秋から。「シドニーにチャレンジしないか」と誘われたのです。

田辺さんの右脚は義足である。失ったのは98年の秋。電單車事故に遭遇して大腿を切断した。普通、大腿が切断されれば大量出血で命を失うが、助かったのは奇跡的だったらしい。そんな事故に遭っても、田辺さんには挫折感が微塵もない。「脚を失ったことより、今後どうするかを考えるしかないでしょ」。その前向きな姿勢、強さは何処から来るのだろうか？「脚を一本なくしても、生きているのは、いいなあと感じるんです」。九死に一生を得た、という想いからのだろうか。

そんな前向きな田辺さんは、「障害者スポーツといえば、車椅子に象徴されるように、自分の障害を補う道具を用いてやるスポーツが多いのですが、シッティングバレーの場合はそうした道具が無く、障害のある人もない人もすぐに一緒にできるスポーツです。座ってしまえば、障害者も健常者も同じなんです。是非、シッティングバレーを多くの人に経験していただきたいですね」とその普及への想いを熱く語ってくれた。

(10月12日、赤塚第二中学校にて取材)

PROFILE ●たなべつとむ●

1963年東京都生まれ。中学時代からバレーボールを始め、82年4月社会体育学科に入学し、バレー部に入部。9人制バレーボール活動に励む。86年3月同学科卒業後、中央区立第四中学(現・日本橋中学)に赴任。91年板橋区立志村第四中学に転任、男子バレー部をつくり顧問に就任。98年電單車事故に遭遇、大腿切断により右脚を失う。治療入院中、シッティングバレーボールを体験、その魅力を知る。日本のシッティングバレーボールが初めてパラリンピックに出場した00年シドニー大会に代表入り9位。02年世界選手権8位、今回のアテネ大会は7位。現在、板橋区立赤塚第二中学校教諭。チームは球玉酒(くすたま)埼玉レッドビーズに所属。

「体操競技館落成記念式典」

平成16年9月17日、横浜・健志台キャンパスにおいて、「体操競技館落成記念式典」が行われ、多数のご列席を頂きました。

最初に体操競技館・エントランスホールにて神事が、続いて学生ホールにて式典・祝宴が、最後に体操競技館・アリーナにて模範演技と新体育館見学が行われました。おりしも、今回の「アテネオリンピック」で、日本の体操が1976年モントリオール大会以来、28年ぶりの男子団体金メダル獲得という嬉しいニュースもあり、そんな記念の年に落成式典が催されたことは、永くみなさまの記憶に刻まれることでしょう。



落成式典・古川敏治理事長挨拶

今後、この体操競技館から新しい技や多くのアスリートが誕生してくれることを期待します。



落成式典・神事



体操競技館内部



体操競技館外観

「自動二輪安全運転講習会」報告

横浜・健志台キャンパス/教務局

平成16年9月30日(木)、横浜・健志台キャンパス1201教室及び第3体育館横駐車場において、青葉警察署交通課の指導による「自動二輪安全運転講習会」が行われ、51名の学生が参加しました。

最初に、青葉警察署交通課による事故防止についての講義と教務局から最近の本学学生の自動二輪による事故報告等が行われ、続いて、駐車場において、實際走行に重要なスラローム(屈折走行)・一本橋(直線狭路走行)の実演と指導が行われました。

スピードの出し過ぎや、ちょっとした油断が事故に結びつくことも多く、安全運転に対する意識付けとなり、ご協力いただいた青葉警察署、青葉二輪車安全普及協会の方々に感謝いたします。



『オープンキャンパス2004』報告

入試広報室



例年多くの高校生、保護者のみなさんに参加いただいている「オープンキャンパス」を、今年は、8月7日、9月18日に横浜・健志台キャンパス、7月31日、10月2日に東京・世田谷キャンパスで合計4回開催いたしました。

この催しは、高校生・保護者を中心に本学キャンパスへ実際に来ていただき、本学の教育理念、教育・研究内容、クラブ活動、入試概要等について理解を深めていただくもので、今年で16回目の開催となりました。

参加者数は、各キャンパス2回の開催で、東京・世田谷キャンパスが1,746名、横浜・健志台キャンパスが863名で、参加者総数は2,609名でした。

プログラムは次のとおりで、参加者はどのプログラム・ブースにも自由に参加できる形式で行いました。

- 総合ガイダンス(主催者挨拶、学科・科の紹介、入試概要、学生生活・就職状況説明)
- 授業体験(体育・スポーツ系、幼児教育系授業の体験)
- 個別相談(学問・資格ブース、学生生活ブース、学友会ブース、就職ブース、入試ブースでの個別相談)
- キャンパス案内ツアー(学内施設を在籍生が案内)
- 在学生と話そう(在学生とのフリートーク)
- 各種資料配布(大学・短大案内、入試過去問題集、シラバス、ライフガイダンスマップ等の配布)
- 大学・短大紹介ビデオ上映(大学・短大紹介ビデオに加え、本学アテネオリンピック壮行会の様子も上映)
- 受験生応援セレモニー(応援団、チアリーダーによる受験生への応援)

参加者アンケートからは「大学の様子がよくわかって、来て良かった!」「日体大への受験の意思が固まった!」「絶対入学したい!」と好評をいただきました。来年度以降、高校生等への広報活動、実施内容等をさらに充実させていきたいと思っております。

平成16年度在籍者数

■日本体育大学

平成16年5月1日現在

区分	1年	2年	3年	4年	合計
体育学科	791 (153)	810 (176)	889 (268)	963 (234)	3,453 (831)
健康学科	174 (74)	182 (97)	183 (95)	189 (91)	728 (357)
武道学科	130 (35)	125 (31)	125 (28)	131 (29)	511 (123)
社会体育学科	175 (46)	173 (50)	178 (48)	224 (74)	750 (218)
合計	1,270 (308)	1,290 (354)	1,375 (439)	1,507 (428)	5,442 (1,529)
体育専攻科	11 (3)	—	—	—	11 (3)
大学院博士前期課程	28 (6)	38 (7)	—	—	66 (13)
大学院博士後期課程	9 (1)	8 (1)	7 (4)	—	24 (6)
合計	37 (7)	46 (8)	7 (4)	0 (0)	90 (19)

()は女子内数

アテネの興奮はここから始まった!「2004 アテネオリンピック壮行会」



平成16年6月26日、東京・世田谷キャンパス第1体育館において、「2004 アテネオリンピック壮行会」が行われ、オリンピック本番を間近に控えた貴重な時間のなか、本学関係出場選手21名(7月16日サッカー・丸山選手が決定し22名)の内、10名の選手に出席いただきました。

会場は、当日の暑さに1,200名を超える在籍生の熱気が加わって開会前からヒートアップ気味でした。そんな中、11時の開会宣言を合図に大きな歓声に包まれ、栄えある選手の入場となりました。

最初に監物永三教授から21名の出場選手が紹介され、長谷川正明学長・古川敏治理事長・池田敬子名誉教授、学生を代表して体育学部3年生の杉本祐行くんから激励の辞が伝えられました。引き続き10名の選手ひとり一人からアテネ五輪に向けての力強い決意が披露されました。そして、応援部によるエールが行われ、アテネでの選手みなさんの活躍を祈念し、心を一つに校歌歌唱がなされ、再び大きな歓声の中、選手退場となりました。

壮行会終了後、長谷川学長から選手ひとり一人に激励金が授与されました。また、出席10名の選手全員が参加しての合同記者会見(25社・56名)が開かれ、再び熱い決意が語られました。

第13回「幼児教育講座」報告

保育科長 時本久美子

本年13回目の「幼児教育講座」は、7月31日(土)に東京・世田谷キャンパスにおいて、最多参加者をお迎えして盛会裏に終了することができました。122名のお申し込みをいただき、108名の方がご参加くださいました。

今年の全体テーマは、「子育てで支援を考える」といたしました。現代社会における幼児教育や子育ての環境では、保育者や親が多くのごことで悩んでいますが、その問題を解決する一つのきっかけとなるような時間を作りたいと考えました。「子育て支援」と言っても、行政の働きもあれば、個人のレベルで企画する形もあり、さまざまです。いろいろな形で行われる支援であっても、子ども達がいかにか心身ともに健康で、元気に育つか、そして親や周りの人達と望ましい関係を作り上げるかということが、大変重要なことです。

今回は、午前中に講演を企画いたしました。作家の椎名誠さんをお迎えいたしました。ご自身の子育ての体験を通して「子供達にとっての日本」というテーマでお話しいただきました。椎名さんの、身近な出来事から感じた「おかしなことが多い日本の社会」について、大変楽しく興味深くお話しいただきました。子どもたちが体験したり学ぶことが少なかったり、変形した子育てでなど、私達大人や社会が子ども達の成長に真剣に取り組まなければならないと、改めて考えさせられました。

午後は、実技を企画いたしました。「運動遊び」(担当:時本久美子)では、親子や仲間と体を楽しみ動かして遊んだり、ボールを使った遊びを体験していただきました。参加者の方が多く、体育館が狭く感じられましたが、皆さんたくさん汗をかいて終了いたしました。最後の企画は、おなじみの峯 陽先生の「子どもの歌と遊び」でした。楽しい手遊びや歌遊び、簡単手作りおもちゃを使って遊び、明日の保育に大きなヒントをいただきました。

このように参加者の方々の熱心な姿に、一同感激しております。今後も、内容を充実して回を重ねていきたいと思っております。ありがとうございました。



平成16年度入学式(横浜・健志台キャンパス)

■日本体育大学女子短期大学

区分	1年	2年	合計
体育科	129	143	272
保育科	64	79	143
合計	193	222	415

■「日本学生支援機構(旧日本育英会)奨学生」採用状況 学生課

■賞与月額(平成16年度採用者実績)

	第一種(無利子)		きぼう21プラン (有利子/年利3.0%以内)
	自宅	自宅外	
大 学	53,000	63,000	3.5, 5.8, 10万円から選択
専 攻 科	53,000	63,000	3.5, 5.8, 10万円から選択
大学院	121,000		5.8, 10, 13万円から選択
	博士後期課程	博士前期課程	
短 大	52,000	59,000	3.5, 5.8, 10万円から選択

■採用状況(平成16年度)

	採用人数(延べ数)	
大 学	421	
専 攻 科	5	
大学院	博士後期課程	4
	博士前期課程	9
短 大	35	
合 計	474	

日本学生支援機構奨学金は国の育英事業で、本学で推薦している奨学金制度の中で最も採用数の多い奨学金です。現在、大学、大学院、短大合わせて1,785名がこの奨学金制度を利用しています。今年度も4月に全学生を対象に募集を行い、奨学生が決定しました。(詳細は表のとおり)年度内の追加募集は予定されていませんが、家庭状況の急変などで急ぎ奨学金が必要となった場合は、早めに各キャンパスの奨学金担当(東京・世田谷キャンパス:学生課、横浜・健志台キャンパス:教務局)までご相談ください。

■平成16年度下半期 就職対策支援行事 問合せ先/就職課TEL.03-5706-0905 平成16年度下半期に世田谷キャンパス、健志台キャンパスで実施されるもの

行 事 名	対 象	開 催 日	場 所
第2回就職ガイダンス 一般常識模擬テスト(職業適性、職業能力)	学部3年・短大1年	10/9(土)	健志台
		10/16(土)	世田谷
第3回就職ガイダンス(進路別講習会) 教員対策/教員講座担当者による対策講座及び合格体験談 公務員対策/公務員講座担当者による対策講座及び合格体験談 企業対策/企業採用担当者による対策講座及び合格体験談	学部3年・短大1年	10/12(火)公務員	世田谷
		10/13(水)教員	世田谷
		10/14(木)企業	世田谷
		10/19(火)公務員	健志台
		10/20(水)教員	健志台
10/21(木)企業	健志台		
幼稚園教諭、面接・マナー講習会 幼稚園採用試験のための面接・マナー講習	短大2年(保育科)	10/5(火)	世田谷
企業・公務員、面接・マナー講習会 企業・公務員採用試験のための面接・マナー講習	学部3年・短大1年	10/7(木)	世田谷・健志台
第4回就職ガイダンス(業界研究) 業界研究の仕方、業界情報	学部3年・短大1年	10/26(火)	世田谷・健志台
第2回教員採用試験模擬テスト 教員採用試験対策のための模擬テスト	全学年(教員希望者)	10/29(金)	世田谷・健志台
公務員講座 公務員採用試験のための勉強会	学部3年・短大1年	11/4(木)~11/22(月) 11/30(火)~12/20(月)	世田谷 健志台
未就職者フォローガイダンス 卒業学年未就職者に対するガイダンス	学部4年・短大2年	11/12(金)	世田谷・健志台
公務員採用担当者説明会(警察・消防・自衛官) 警察官・消防官採用試験説明会 自衛官採用試験説明会	学部3年・短大1年	11/26(金)・29(月) 12/8(水)	世田谷・健志台 世田谷・健志台
教員採用試験1次対策講習会 教員採用(保健体育)の一次対策、論作文、面接、一般・教職等 教員採用(養護)の一次対策、論作文、面接、一般・教職等	学部3年・短大1年	12/9(木) 12/10(金)	世田谷・健志台 世田谷
第5回就職ガイダンス(エントリーシート・面接講習会) 面接対応、エントリーシートの書き方、履歴書の作成等	学部3年・短大1年	12/21(火) 12/22(水)	世田谷 健志台
学内合同企業説明会 企業採用担当者(30社予定)による学内企業説明会	学部3年・短大1年	1/15(土)	健志台
小学校教諭免許取得のための説明会 玉川大学通信教育学部担当者による小学校免許取得のための説明会	学部3年・短大1年	1/26(水) 1/27(木)	世田谷 健志台
第3回教員採用試験模擬テスト・論作文対策講座 教員採用試験対策のための模擬テスト、論作文の書き方	全学年(教員希望者)	1/28(金)	世田谷・健志台
公務員採用模擬テスト 公務員採用試験のための模擬テスト	学部3年・短大1年	2/8(火) 2/9(水)	世田谷 健志台
未就職者フォローガイダンス 卒業学年未就職者に対するガイダンス(非常勤講師登録方法等)	学部4年・短大2年	2/26(土)	世田谷・健志台
職業興味検査 職業興味検査の実施	学部2年	3/1(火)~4(金)	世田谷 健志台

04年度 [上半期 クラブの主な大会成績]

クラブ名	大会名	結果	氏名	
■アーチェリー	全日本学生王座決定戦	女子 優勝		
	全日本学生連盟杯	女子 優勝		
■ウエイトリフティング	アジア選手権	女子 58キロ級 8位 女子 75キロ級 4位 女子 48キロ級 優勝(大会タイ記録) 女子 63キロ級 優勝 女子 69キロ級 優勝 男子 56キロ級 3位 男子 69キロ級 2位 男子 85キロ級 3位 女子 58キロ級 2位 女子 63キロ級 2位 女子 69キロ級 2位 女子 75キロ級 優勝 男子 56キロ級 2位	川上知子 今鋒一恵 久保田佳乃 松野佳佳 宮城寿子 大田真志 井戸豊 新垣勉 川上知子 塩見佳世 宮城寿子 今鋒一恵 真下智恵美 須田隆幸 井戸豊 瀧慶次雅子	
	全日本学生選手権			
	全日本選手権			
	世界ジュニア選手権			
	全日本学生選抜重量挙げ選手権			
	■カヌー	全日本学生選手権	男子 カナディアンリレー500m×4 1位 女子 総合 2位	
	■空手道	夏季団体 関東学生選手権大会	男子 レーシング・カヤックシングル(500m) 1位	松田淳司 本村寿規
	■剣道	全日本女子剣道	女子 2位	新里知佳野
	■サッカー	五輪アジア予選 フナエリメンタック	女子 3勝1敗 男子 7位	丸山桂里奈 丸山桂里奈
	■柔道	全日本学生優勝大会	男子 大谷俊秀選手	大谷俊秀
	■少林拳法	関東学生大会	男子 三段以上の部 優勝 男子 二段以上の部 準優勝 女子 三人掛けの部 優勝 女子 二段以上の部 準優勝	増井友哉、二木琢磨 長東賢志、高橋良平 中尾啓子、安江優子、清田麻衣 高橋幹枝、中西順子
	■水泳(競泳)	日本選手権	男子 50・100・200m平泳ぎ 1位 女子 100・200m背泳ぎ 1位	北島康介 中村礼子
欧州GP/リレセロナ大会		男子 100m平泳ぎ 1位 男子 200m個人メドレー 3位 女子 50m背泳ぎ 4位 女子 100m背泳ぎ 1位 女子 200m背泳ぎ 2位	北島康介 北島康介 中村礼子 中村礼子 中村礼子	
欧州GP/ローマ大会		男子 100m平泳ぎ 3位 男子 200m平泳ぎ 2位 女子 100m背泳ぎ 2位 女子 200m背泳ぎ 1位 男子 100m平泳ぎ 1位	北島康介 北島康介 中村礼子 中村礼子	
アテネオリンピック		男子 200m平泳ぎ 1位(五輪新) 男子 400mメドレーリレー 3位(日本=日本新) 女子 100m背泳ぎ 4位 女子 200m背泳ぎ 3位(日本新) 女子 400mメドレーリレー 5位(日本)	北島康介 北島康介 中村礼子 中村礼子 中村礼子	
日本学生選手権		男子 100・200m平泳ぎ 1位(大会新) 男子 1500m自由形 1位 男子 400mメドレーリレー 2位 女子 100m背泳ぎ 1位(大会新) 女子 200m背泳ぎ 1位(大会新)	北島康介 本多勇樹 井上優 中村礼子 中村礼子	
夏季団体		男子 100m平泳ぎ 2位 女子 200m背泳ぎ 2位	中村礼子	
■水泳(水球)		日本選手権 関東学生リーグ	男子 優勝(2年連続27度目) 男子 優勝(4年連続30度目)	
■水泳(飛込)		日本選手権 日本学生選手権	女子 3mシンクロナイズスダイビング 2位 男子 3m飛込飛込・高飛込 1位 男子 学校対抗 優勝	片平真貴、三河麻衣子 坂井薫
■相撲		全国選抜大会・実業団刈谷大会	男子 優勝(初優勝)	
■ソフトテニス		東日本学生選手権	女子 ダブルス 2位	蓮野祐子、加藤愛絵
■ソフトボール		全日本大学選手権	男子 2位 女子 優勝(大谷女子大との同校優勝)	
■体操競技		五輪2次選考会 NHK杯	個人総合 3位 男子 団体総合 8位 女子 団体総合 6位 男子 団体総合 1位 男子 個人総合 1位 男子 個人総合 3位 男子 つづ輪 1位 女子 団体総合 3位	溝口絵里加 中瀬卓也 溝口絵里加 伊原隆大 中瀬卓也 中瀬卓也
■テニサー	日本選手権	女子 大学部門 優勝		
■トライアスロン	日本ジュニア選手権	男子B 1位	伊東宏晃	
■なぎなた	全日本学生選手権	女子 団体 2位		
■軟式野球	全日本大学選手権	男子 優勝 女子 優勝(3年連続9度目)		
■バスケットボール	日本女子学生選抜大会 関東女子学生選手権	女子 優勝 女子 準優勝		
■バドミントン	関東大学リーグ戦	男子 準優勝 女子 優勝		
■ハンドボール	関東学生	男子 2位 女子 3位		
■フェンシング	日本学生王座決定戦	女子 フォールレ 3位 女子エペ 2位 女子 サブル 3位		
■ボート	全日本大学選手権	男子 かじなしクワドルブル 1位		
■野球	首都大学	男子 2位		
■陸上競技	関東学生対校選手権	男子 1万m 1位 男子 棒高跳び 1位 女子 1万m 1位 女子 7種競技 1位 男子 棒高跳び 3位 男子 110m障害 3位 男子 110m障害 1位 男子 対校得点 3位 女子 七種競技 1位 女子 200m 1位	徳科光作 松木俊介 小山真子 横田美帆 森部雅文 中村兼希 中村兼希 横田美帆 堀電佳宏	
■ライフセービング	日本ジュニア選手権	男子 優勝(15連覇総合優勝)		
■レスリング	全日本S室内選手権 全日本選抜選手権	男子 フリー74kg級 2位 男子 グレコ66キロ級 優勝 男子 グレコ65キロ級 優勝 男子 グレコ60キロ級 優勝 男子 グレコ54キロ級 優勝 男子 フリー60キロ級 優勝 男子 フリー74キロ級 優勝	加藤隆輔 伊是名正輔 和田宗法 福間道元 斎川昭博 小島家三 加藤晴晴	